

日吉台地下壕保存の会

会報

第7号

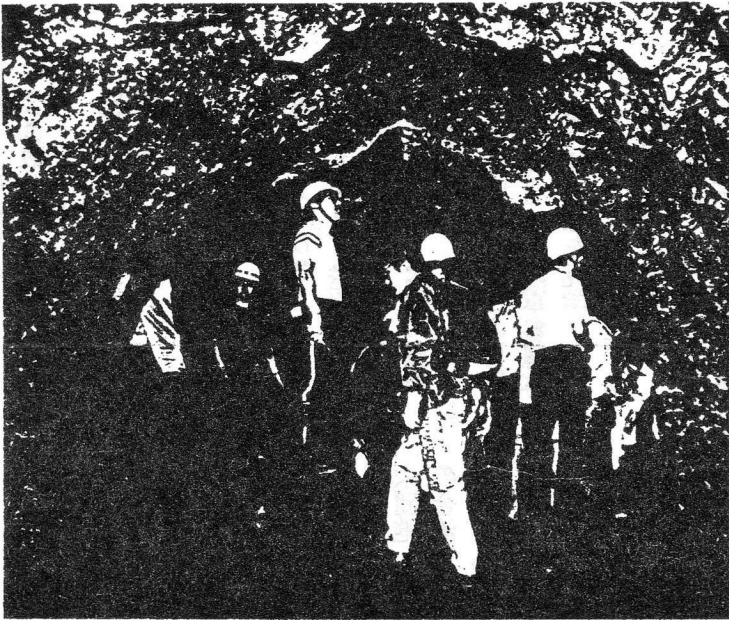
発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

TEL 044-62-1282 (寺田貞治方)



八王子市高尾の地下壕内部

目次	頁
○全国の仲間達と共に	1
○地下壕見学会のお知らせ	2
○お願い (地下壕見学について)	2
○第1回幹事会報告	2
○第2回幹事会報告	2
○第3回幹事会報告	3
○地下壕見学記	4
○旧海軍地下壕見学会 についてのアンケート	5
○八王子市高尾の 地下壕見学記	5
○お願い (会費納入について)	6
○編集後記	6

△全国の仲間達 と共に

事務局長 寺田貞治

太平洋戦争末期、本土決戦のため日本各地で地下壕が掘られました。そして今、日本の各地でこれらの地下壕について多くの人達が調べています。みんな思ひは、私たちと同じです。

いつまでも戦争のない平和な世の中であるように、そのためにも戦争のことを風化させてはいけなと、私達と同じように活動しているグループや人達がいいます。

私達は、こうした全国にちらばって活動している仲間達と、連帯しながら地下壕の保存と公開に向けて、更に活動を活発に進めていきたいと思ひます。会員数も300名近くになり、かなり広がりを見せて来つてあります。

会員の皆さんも、どしどし会の活動に参加して下さい、一日も早く目的が達せられますよう、ご支援・ご協力をお願い致します。

地下壕見学会△云
のお知らせ

日時 9月2日午後1時半

集合場所 日吉地区センター

日吉駅西口徒歩約7分

携行品 長靴、懐中電灯

注意 子供の参加はお断りし

ます。民家の屋敷から

入らせて頂きますので、

案内者の指示に従って

行動して下さい。

お願い

(地下壕見学会について)

最近 地下壕に無断で勝手

に入られる方がおられます。

入口の民家の方から苦情が出

ています。保存の会の活動に

も支障をきたしますので、御

注意願いたいと存じます。

出来るだけ保存の会の見学

会に参加するようにして下さい。

い。都合が悪くて他の日に入

りたい場合には一言事務局ま

でご連絡下さい。

第1回幹事会△云

招報出口

日時 5月22日午後5時

場所 藤山記念館中会議室

報告事項 事務局長より

1. 会員数 267名

(5月21日現在)

団体会員 1組

賛助会員 4名

2. 会計

収入 169528円

支出 21215円

残額 148313円

3. 3月17日：会報第5号

を印刷・発行

4. 3月29日：総会の資料

を印刷

5. 4月2日：市ヶ谷の自衛

隊駐屯地の旧陸軍参謀本

部の地下壕を見学

6. 4月6日：総会のビラを

印刷、学内に配布

7. 4月7日：第2回総会

25名参加(横浜市長選

のためか少なかった)

8. 5月7日：会報第6号を

印刷・発行

9. 5月8日：区役所から市

に提出する報告書に就い

て話を聞く。かなり出来

あがついるが、まだ完成

していない。完成すれば

プロジェクトチームの会

議を持つということであ

った。

10. 5月26日：日吉台西

中学校PTAが地下壕を

見学予定

11. 6月23日：港北区の

小学校社会科教師のグル

ープが地下壕を見学予定

議事

1. 今後の活動計画について

調査活動

(1) 朝鮮人労働者の問題

栄団地(鶴見川の矢上川と

の合流地点付近)に当時の

人がいるかも知れない。

(2) 国会図書館で資料が無

いかどうかを調べる。小園

さんが知人に問い合わせ

みる。

(3) 神奈川県の他の地下壕

の調査に就いて

皆川さんが少し知ってい

られるので、その資料を見

せて頂く。県立図書館にも

資料がある。

(4) 幹事会で蟹ヶ谷の地下

壕を調査する。

市ヶ谷の地下壕の見学会

をやる。

旧海軍警備隊の方に当時

の様子を、神奈川工業高校

の方に旧登戸研究所の話を

聞く。

2. 会報第7号は、7月頃に

発行する。

3. その他

皆川氏より年間スケジュール

を決めてほしいとの要望

があり検討した。

第2回幹事会△云

招報出口

日時 6月22日午後6時

場所 藤山記念館中会議室

報告事項 事務局長より

1. 会員数 283名

(6月24日現在)

団体会員 1組

賛助会員 4名

2. 会計

収入 223528円

支出 21215円

残額 202313円

(1990年度会費納入者

1180名)

3. 5月26日：日吉台西中

学校PTA部活委員会が

地下壕見学。23名参加

4. 6月2日：八王子市高尾

の地下壕を見学(寺田)

参加者70数名。

5. 6月6日：「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流会」への呼掛け団体として連盟して頂きたいとの要請があった。
- 全国交流会は、名古屋で8月25・26日に行われる予定。
6. 6月7日：「松代を考える会」の山根昌子氏より、「韓国の外国語大学の先生と学生約20人が6月28日に来て、松代の地下壕を見学した後、松代で開かれる30日・1日のシンポジウムに参加することになっている。」
- 7月2日には日吉の地下壕を見学した後、交流会を持ちたいので宜しく頼みたいのだが・・・という要請があった。また、「ホームステイなどの宿舎に就いても宜しく頼みたい」との話があった。
- 6月23日：港北区の小学校社会科教師のグループが地下壕を見学予定
- 6月27日：下田小学校

- 教員が地下壕の見学予定幹事より
1. 6月9日：日吉台中学で地下壕を見学。中学生と先生14名参加（茂呂）
 2. 浦島町に昔の機関砲を庭に置いてある家がある。（茂呂）
 3. 時効なき戦争責任（緑風出版）に日吉台地下壕の保存運動に就いて書かれている。（谷）
 4. 区役所で市に提出する地下壕保存に就いての報告書の素案を作成（寺田）
- 議事
1. 「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流会」への呼掛け団体として連盟して頂きたいとの要請に就いて
- 保存の会は、地下壕の保存運動が中心なので、関連はあるが、呼掛け団体になるのは見合わせる。
2. 「韓国の外国語大学との見学会・交流会」に関する要請に就いて
- 交流会の場所として、藤山記念館大会議室を午後1

時より確保してある。

要請に就いては受け入れる方向で検討する。但し、もっと詳しい情報を知らせてほしいということと至急に問い合わせる。交流会の司会は、茂呂先生にお願いする。宿泊は茂呂先生と谷藤先生にお願いする。具体的な受け入れ準備は電話でする。

3. 今後の活動計画に就いて
- ① 蟹ヶ谷の地下壕調査：7月19～21日
 - ② 日吉台中学で予定
 - ③ 市ヶ谷の地下壕見学：10月ごろ
 - ③ 日吉台地下壕見学：11月ごろ
 - ③ ヒヤリング：「旧登戸研究所に就いて」
 - ④ 市に提出する地下壕保存に就いての素案の検討：次回幹事会で行う。
 4. 会報第7号は、7月中に発行する。

第30回幹事会△△

日時 7月11日午後5時半
招集出日

- 場所 藤山記念館中会議室
報告事項
- 事務局長より
1. 会員数 284名
(7月10日現在)
 2. 団体会員 1組
賛助会員 4名
 3. 会計
収入 232528円
支出 21215円
残額 211313円
(1990年度会費納入者 184名)
 4. 6月23日：港北区小学校社会科研究会の教員が地下壕を見学。矢上小学校で地下壕に就いて講演聞いた後見学。50数名参加。
 5. 6月27日：連合艦隊司令部の電気長をしていた菅谷源作氏がこられ、2時間ほど話を伺った。その後地下壕を案内した。
 6. 6月27日：下田小学校教員が藤山記念館中会議室で地下壕の説明を聞いた後、地下壕を見学。26名参加。
 7. 7月2日：韓国外国語大

学校の朴薫熙教授と学生13人、他に韓国の太平洋戦争遺族会の役員2名が地下壕を3時から6時頃まで見学した。

7月2日：慶應生協ニュース教職員版発行。元海軍人事局にいた若林繁雄氏の話を掲載。

議事

1. 区から市に提出する地下壕の保存に就いての素案に就いて討議した。

2. 今後の活動計画についてヒヤリング：9月ごろ開催「登戸研究所に就いて」

見学会：

* 日吉台地下壕

9月2日午後1時30分

日吉地区センター集合

* 市ヶ谷の地下壕

10月11日予定

3. 会報第7号の発行

7月中旬予定

4. 次回幹事会

9月18日午後6時

日吉台西中学校PTA

地下壕見学会子記

(5月26日実施)

地下壕をも

見学会子記

中学教員 馬場 学

勤務先の知合いの方に、またま声を掛けられ参加した訳でしたが、実際に現地を見たら声もでないくらい驚きました。

旧帝国海軍の使用した作戦壕は迷路のように長く続いていました。そこにたえずみ、皆さんと黙祷したとき、私はフィリピン沖で輸送船と一緒に海に沈んだ伯父のことを思い出しました。

顔さえ知らぬ伯父ですが、地下壕は悲しみを呼び覚ますに十分すぎるものでした。平和の尊さをかみしめつつ。

馬場 貞子

今回私は2度目の参加でした。1度目の時は子供の頃を思い出して、ワクワクした気分です。全てが物珍しく、探検隊の一員になったつもりで興味深く周囲を見まわしたものでした。

しかし、2度目の今回は少々違いました。前回、聞きに

くかったにもかかわらず話の端々が耳に残っており、兵隊さん達が忙しく動き回っている様子が想像できました。

以前、市ヶ谷の自衛隊駐屯地にある地下壕をテレビで見ましたが、日吉のそれと全くと言っていいほど同じ具合でした。きつと頭脳の結集だったのでしょうか。

私は戦後生まれで兵隊さんを知りません。しかし叔父の何人かは戦死しております。きつとこのような地下壕の中

で作戦がたてられ、その指示により動かされていたのではないのでしょうか。

現在日本の中に水洗トイレになつていないところもあるというのに、地下壕では水洗トイレを使用していたことなど信じられないことです。菌類とはいえ植物が生きていることも信じられない事実ですが、何かほつとするものを感じました。あの壕は信じられない事実がたくさん詰まっている秘密の箱なのではないでしょうか。

日吉台地下壕に想うこと

亀岡 敦子

昨春秋、中学校のPTAの方達と、寺田先生の案内で旧海軍連合艦隊司令部の地下壕を初めて見学しました。真っ暗闇のタイムトラベルから、紅葉の美しい平和な現実に戻ったときの不思議な感覚は今も忘れることが出来ません。それ以来、心に苦いものがあるように残っています。

今年5月、再び地下壕に入りました。一人一人が手にした懐中電灯だけを頼りに、説明を聞きながら迷路のような長い地下壕を歩きます。

ここが通信室ここが作戦会議をした部屋。地下壕作りには朝鮮人労働者も従事。司令長官の昼食は、フランス料理のフルコース。

私は戦後生まれだけれど、大戦末期の一般国民はどんな暮らしをしていたかは知っています。人々は肝心なことは何も知らされていなかったのです。

最後に灯を消して黙祷を捧

げながら、私は本当のことを知りた、と思いました。今からでも遅くはない。私自身が、白い割烹着にたすきをかけて、パンザイ、パンザイと、わが子を戦場に送り出すというような愚かな罪を犯す羽目にならないために。

港北区小学校
社会科研究会

旧海軍地下壕

見学△△△について

アンケート

結尾

(6月23日実施)

会の形式・企画について

・事前に説明があったので、地下壕に入ってからわかりやすかった。

・OHPの利用など、講義形式がわかりやすかった。

・フィードバックも説明が詳しくて掴みやすかった。

・企画・テーマそのものが魅力的であった。

・内容が詳しく良かったが、時間が長すぎた。

地下壕に実際に入ってから感想

・あんな所で一千人も働いていたとは、日本軍もずいぶん追いつめられていたんだと思った。

・予想以上に大規模で驚いたが、日吉という街を再認識した。

・あれだけの物を真剣に作らねばならなかった当時の時代の背景が実感できた。

・戦争が一部の軍人のみの為にあったことを痛感した。

・こんな身近なところに戦争の残骸があったことに驚いた。

地下壕の今後の扱い方・活用などについて

・保存して戦争を考える資料にする。広く世間に知らしめるべきだ

・泥などを取り除き、いつでも見学できるようにする。

・復元し、一般公開する。宣伝も必要である。

・早期公開できるように、今後

も働きかけて行くことが大切だ。

・壕以外の遺稿なども抱合せて公開していけばよいと思う。

・太平洋戦争について学習する際は、ぜひ話して行きたい。

等の意見が寄せられた。

大方の意見としては、「早期公開」をのぞむ声が多く、「百聞は一見にしかず」、

広く人々の目に触れてこそ価値がある、というようなニュ

アンスが強いようである。

「公開」にこぎつけるためには、人々の「要望」の声の高まりが必要であり、そのためにも、今回のような企画を増やして賛同者を広めていく地道な努力が大切ではないだろうか。

(矢上小学校 久賀)

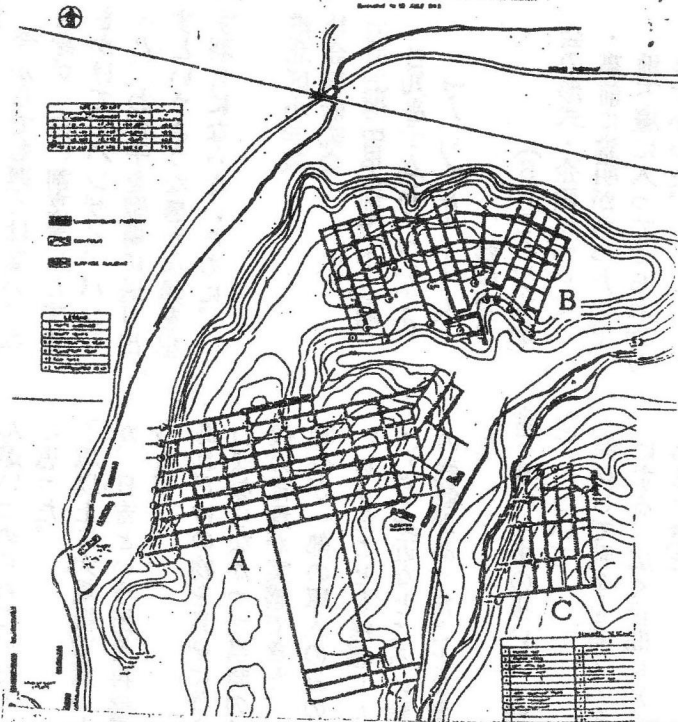


八王子市高尾の地下壕
見学日記

寺田貞治

京王高尾駅を下りる南に高い山が見える。この山の下に松代大本営の地下壕に匹敵するほどの「高尾地下壕」がある。図のBの一番東の15番入口から中に入った。中は地下水もなくひんやりとしていた。周りの岩石は硬い灰岩ないしは珪質砂岩のようであった。

Bの一部を見た後、図のAの南側の地下壕の東に開いた入口を見た。西側に回って3番入口から中に入った。この地下壕は基盤の目のように掘られていた。中は非常に広くここだけで延べ何kmもあるように思われた。高さ・幅ともに4m以上もあるところが多かった。周りの岩石はBと同じであった。所々地下水がたまっていた。一時はキノコの栽培やワインの貯蔵にも利用されたようで、あちこちにキノコの栽培用品などが散乱していた。



八王子市高尾の地下壕。ABCの3ヶ所に掘られ、巨大なトンネルが基盤の目のように縦横に走っている。

高尾の地下壕もまだ不明な点が多いが、掘削が始められたのは昭和19年9月ごろといわれる。工事は倉庫の建設という名目で進められ、その内容は極秘だった。当初は大本営参謀本部が入る予定であったが、計画が変更され、大本営は松代に移転した。その後この地下壕は中島飛行機制

作所に移管された。

掘削は20年半ばまで行われ、その間、丹那トンネルを完成させた工作隊を中心に工兵隊約2000名、徴用工員3000名が投入された。徴用工員は主に強制徴用による朝鮮人であったという。一説によると徴用工員は7000人を越えていたという。

地下壕は、図のABCの三箇所

に掘られ、延べ約3kmといわれているが、図面や歩いた感じから判断すると10kmはありそうである。

中島飛行機制作所地下壕の出来上がるのを追って、ここに発動機生産のための工場施設を作っていた。地上施設も数限りなく建て、ここに大工場が出現した。

昭和20年の春頃から工場が稼働し始めたと推測されているが、ここで働いた工員数は約3万人であったという。

見学が終わって、公民館で交流会がもたれた。全国各地から、いろいろな団体から、参加しており、その数は70数名に及んだ。ここでの話の中で、特に「丸太」棒を枕にして寝かし、起こすときは丸太を叩いて起こし働かせた」という話が耳に残った。



お願ひ

(会費納入について)

まだ100人の方に今年度の会費を頂いておりません。未納の方は、是非お納め下さいますようお願い致します。未納の方には払い込み用紙を同封しました。

姪崎佳米 依仗訂礼

◆見学会の感想やアンケートの結果などの原稿が寄せられ、会報第7号を発行することが出来ました。原稿有難うございました。

◆もつと余裕を持って編集・印刷・発送をしようと思うのですが、結局は慌ただしくバタバタとやっています。また、こうでないと発行できないのかも知れませんが。◆会報についてご意見やご感想がありましたら事務局までお寄せ下さい。